

AMDA パキスタン洪水で支援

菅波代表ら
4人

現地に向け出発

7月下旬に起きたパキスタンの洪水被害の被災者を支援するため、国際医療ボランティアAMDA(本部・岡山市)の菅波茂代表(63)ら4人が15日、現地へ向け、JR岡山駅を出発した。

一行は菅波代表と刈崎祐一医師(66)、渡辺美英看護師(51)、土佐光章調整員(40)。関西空港を同日夜にたち、18日までに順次現地入りし、約2週間、巡回診療を行う。

菅波代表は「洪水でできた多くの水たまりで蚊が大量発生し、マラリア患者が増えていくと聞く。下痢など感染症も深刻化してお

以降、アフガニスタン支部から医師ら6人をパキスタンへ派遣。今月下旬にはさらに岡山から医師ら3人が現地へ向かう予定。
パキスタンの洪水は、7月末の北西部の大雨をきっかけに被災地はインダス川下流の中・南部に拡大。1600人以上が死亡、1700万人以上が被災した。(内田光祐)